

ニホンザルは「素材」をどう知覚するか

横井 功(自然科学研究機構生理学研究所・
認知行動発達機構研究部門)

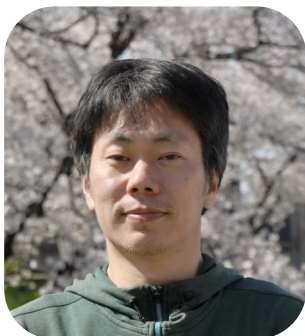
私たちの生活環境には様々な素材(例えば金属、木)で作られた物体が存在しています。ある物体を眼で見るだけで、私たちはその物体がどの素材から作られているのかを知ることが出来ます。また見ただけで物体を触った時の感触(やわらかい、ざらざら等)を感じることもできます。

この素材知覚は私たちが目の前にある物体を持ち上げたり動かしたりすることを容易にしています。素材知覚は日常生活を行う上で重要な脳の働きであり、近年多くの研究が行われていますが、その仕組みについてはまだよく分かっていません。

私たちは、サルが様々な素材でできた実物体を握る課題を行っているときの行動を分析し、サルが素材をどのように知覚しているかを調べました。本講演ではサルの行動と、素材に触れる経験が脳活動に与える影響について紹介します。



図の説明 左図:実験に使用した実物体の例、 右図:金属を握るサル



生理学研究所 認知行動発達機構研究部門 助教。博士(理学)。
藤田保健衛生大学(現藤田医科大学)衛生学部卒業、総合研究大学院大学
生命科学研究科単位取得退学。生理学研究所研究員、和歌山県立医科大学
医学部助教、生理学研究所感覚認知情報部門特任助教、同部門助教を
経て、2019年4月より現職。
専門は神経生理学、特に視覚。現在は質感に関心をもつ。